

## 十. 江戸時代の庄内は旗本大嶋三家と幕府領の入組支配だった

織田信長が政権をとり、荒木村重が当地を治めるようになって、小康を得ましたが、それも長くは続きませんでした。荒木村重が信長に叛いたため、信長は村重追討の兵を出しました。豊島郡の各村々もそうであるように、天正六年（一五七八年）その兵火にかかり、庄内各村の家々はいうに及ばず、寺社もことごとく灰燼（かいじん）に帰しました。

豊臣秀吉が大坂に城を築き、天下に号令をかけるようになった慶長三年（一五九八年）には、大嶋光義が当地を領有するようになりました。その後、江戸時代の終わりまで、庄内各村は大嶋家（川辺大嶋家、迫間大嶋家と鉄太郎家の三家）と幕府領（天領）の入組支配となっています。

大嶋家の代官所は牛立村にありました。今も代官所の長屋門らしき建物が残っています。当棕橋荘の延宝検地は延宝七年（一六七九年）におこなわれました。元禄六年（一六九三年）に大嶋家の代官・萱野七郎左衛門が立会って作成された庄内の図面（別紙）があります。その図面によれば、南北に水路が整備されていることが理解していただけるのではないのでしょうか。